

# 常設委員会報告



## 総務委員会報告

委員長 阿部 暢夫

令和5年度 総務委員会は、下記の10名にて構成されています。

委員長：阿部 暢夫(富士開発(株))  
副委員長：加藤 信治((株)松原工事事務所)  
委員：西部 雅英((株)ヨコタテック)  
委員：佐藤栄一郎((株)中部ウエルボーリング社)  
委員：天木 亨(興亜開発(株))  
委員：鈴木 正道((株)フジヤマ)  
委員：駒田 泰士(協和地研(株))  
委員：土屋 靖司((株)富士和)  
委員：岩部 健司(不二総合コンサルタント(株))  
委員：山本 貢司(東洋地研(株))

当委員会は、協会運営の全体の総括を担当しています。主な活動としては、以下の通りです。

- イ)公正取引に関する法令遵守及び論理規定に関すること
  - ・独占禁止法遵守講習会の開催
- ロ)新入会員の入会促進運動
- ハ)地質調査の資格試験に関すること
  - ・地質調査技士等、資格検定試験の実施
  - ・地質調査技士受験対象者講習会の実施
  - ・地質調査技士登録更新講習会の実施
  - ・地質情報管理士資格検定試験
  - ・その他地質調査技士に関すること
- ニ)四支部協議会の実施
- ホ)会員相互の親睦会の実施
- ヘ)その他協会運営に関すること

以下に主な委員会の活動報告を致します。

### ●第63回通常総会

令和5年5月12日 名古屋ガーデンパレス  
出席者：会員39社(39名) 賛助会員3社(3名)  
表彰者2名 報道関係2名 事務局3名  
今年度は役員改選を行いました。

### ●親睦ボーリング大会

令和5年5月26日 星ヶ丘ボウル  
参加者：90名(17社)  
優勝者：団体 (株)大和地質  
個人 金子 佳弘

### ●第59回地質調査技士受験者対象講習会

令和5年6月23日 名古屋国際会議場  
受講者数：60名  
講師：折野 好高((株)東海環境)  
富岡 伸芳((株)ダイヤコンサル)  
大石 雅彦(中央開発(株))  
棚橋 昌平(応用地質(株))

### ●第58回地質調査技士資格検定試験

令和5年7月8日 桜華会館  
受験者数：124名

### 検定試験結果

部 門	受 験 者	合 格 者
現場調査	27	12
現場技術・管理	83	19
地質情報管理士	14	5
合 計	124	36

### ●令和5年度コンプライアンス講習会(5協会合同)

令和5年11月13日 名古屋ガーデンパレス  
受講者：200名 111社  
講師：公正取引委員会事務局 中部事務所  
経済取引指導官 勝上 一貴  
下請取引調査官 深川 大地



### ●令和5年度 地質調査技士登録更新講習会

令和5年11月22日 名古屋国際会議場  
受講者数：216名  
講師：出口 祐二(東邦地水(株))  
津坂 喜彦((株)アオイテック)  
田中 史郎(富士開発(株))  
近藤 勉(川崎地質(株))

### ●新春賀詞交換会・麻雀大会

令和6年1月13日 麻雀「琥珀」  
参加者：28名(15社)

### ●四支部協議会

中部協会と県協会(愛知・岐阜・三重・静岡)との四支部協議会を年一回実施し、中部協会との連携を密に協会員の技術力、品格等の向上及び会員企業発展のため努力しています。

最後に委員会活動に対して、ご理解並びにご尽力とご協力をいただいた各委員及び会員各位に心から感謝申し上げます。



## 研修委員会報告

委員長 大久保 卓

令和5年度の研修委員会のメンバーは以下の10名で構成されています。

- 委員長：大久保 卓((株)大和地質)  
 副委員長：二階堂 学((株)大日本ダイヤコンサルタント)  
 委員：都築 孝之(日本物理探査(株))  
 委員：福本 延和(日特建設(株))  
 委員：小笠原朋弘((株)ティビー)  
 委員：伊藤 健二((株)日さく)  
 委員：澤田 茂((株)総合開発調査)  
 委員：大井 寿彦((株)東日)  
 委員：中野強一郎((株)中野地質)  
 委員：高橋 将也(村木鑿泉探査(株))

当委員会の本年度の活動内容は以下の通りです。

- イ) 協会の技術向上のための技術研究会・講習会の開催  
 ロ) 現場見学会による研修会の開催  
 ハ) 技術講習会としての新春技術者懇談会の開催  
 ニ) 女性技術者活躍推進委員会・座談会の開催

以下に主な活動について報告します。

### ●令和5年度 女性技術者座談会の開催

- 開催日時：令和5年6月16日(金)  
 場所：TKP名鉄名古屋駅カンファレンスセンター  
 参加者：22名  
 議題：女性が働きやすい環境づくり  
 (働き方、就労時間等)について

今年度、5回目を開催することができました。

第1回の開催に比べますと、約3倍の参加人数で開催することができ、会員各位並びにWGメンバーに感謝しております。内容及び活動については、色んな分野で活動しており、女性技術者・活躍推進ワーキングにて報告致します。

### ●現場見学会の開催

- 開催日時：令和5年11月8日(水)  
 場所：内ヶ谷ダム  
 参加者：17名  
 講師：岐阜大学 沢田 和秀先生  
 (岐阜大学工学部)

岐阜県長良川の支流である亀尾島川の上流部分に築造する、内ヶ谷ダムの建設現場を見学しに行きました。行きのバス車内では、沢田先生による「砂防堰堤上流部の崩壊斜面の進行に関する調査」と題して、非常に貴重な講演をして頂きました。又、午後からは急峻なV字谷に造られる内ヶ谷ダムを見学しました。現地では、長良川上流河川開発工事事務所の桑原係長始め職員の皆様の協力のもと、大変詳しく説明をして頂き、参加者全員が感動していました。

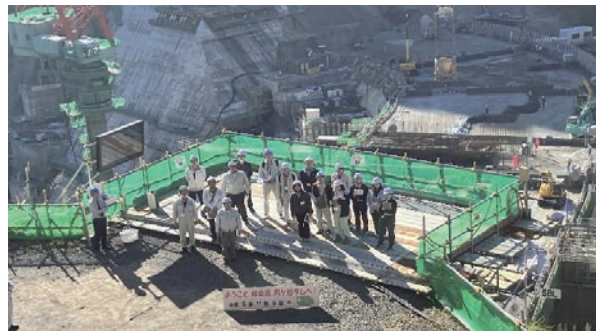


写真-1 現場見学会(内ヶ谷ダムにて)

### ●道路防災点検技術講習会の開催

- 開催日時：令和5年11月10日(金)  
 場所：名古屋国際会議場1号館  
 4階レセプションホール

- 主催者：(一社)全国地質調査業協会連合会  
 参加者：90名

講習会開催に伴い、委員会よりメンバー4名が応援に行き、受付及び資料配布等の手伝いをしました。

### ●新春技術者講習会の開催

- 開催日時：令和6年1月26日(金)  
 場所：ホテル名古屋ガーデンパレス  
 参加者：講習会50名、懇親会43名  
 講師：竹内 誠先生  
 (名古屋大学大学院環境学研究教授)

- 議題：「5万分の1地質図幅作成と地質研究」

竹内先生の講演内容では、地質図幅を作成するには、現地踏査の重要性が必要だと私は感じました。今回の講演に対し、会員の皆様にはたくさんの質疑応答をいただき、大変盛り上がり充実なひと時を過ごすことができたと思います。



写真-2 新春技術者講習会の様子

最後になりますが、委員会活動に対してご尽力並びにご協力いただいた各委員、女性技術者WGのメンバー及び会員各位に心から感謝申し上げます。



# 常設委員会報告



## 女性活躍推進ワーキング活動報告

女性活動推進WG 岩崎 理代

### 1.ワーキングの構成

女性活躍推進ワーキンググループは平成30年度に研修委員会のもとで新しく発足され、発足から5年を迎えた。1名脱退後、新加入メンバー1名を迎えた新体制、以下7名のメンバーを中心に活動を行ってきた。

リーダー◎岩崎 理代(大日本ダイヤコンサルタント(株))  
 石原 聖子(中部土質試験協同組合)  
 下山 友実(日本工営都市空間(株))  
 高見 幸恵(川崎地質(株))  
 【新】藤代 祥子(日特建設(株))  
 平江 喜子(応用地質(株))  
 三好 千春(東邦地水(株))

### 2.活動の概要

前年までのワーキング活動は新型コロナウイルス感染症の影響で制限されていたが、令和5年度はこれらの制限が緩和され、充実した活動を行うことができた。

令和5年度の主な活動の内容は以下7点。

- ①女性技術者座談会の開催
- ②内閣府の取り組み(リコチャレ)夏の学校
- ③SNSでの情報発信
- ④女性技術者向けのメルマガ配信
- ⑤中部地質調査業協会HPに女性活躍推進WGのページ開設
- ⑥小牧工科高校での出前授業
- ⑦三重県建設業協会女性部会との交流会

#### ①女性技術者座談会の開催

女性技術者同士のネットワーク構築や、働きやすい環境づくりに向けた問題抽出を目的として、女性技術者座談会の開催を計画した。詳細は3項。

#### ②内閣府の取り組み(リコチャレ)への参加

理工チャレンジ(リコチャレ)とは理工系分野に興味のある女子中高生・女子学生に向けて進路選択を応援するため内閣府男女共同参画局が中心となって行っている取り組みで、理工系分野の大学や企業などが『リコチャレ応援団体』として紹介されており、理工系分野で活躍する女性からのメッセージ紹介などを行っている。

令和5年度は「リコチャレ夏の学校」と題したイベントに参加をし、名古屋市科学館での地学ツアー「地球を知る」を開催した。詳細は4項。

#### ③SNSでの情報発信

地質調査業知名度向上を目指した活動の一環としてより多くの若者や女性に業界のことを知ってもらうためにSNS(X:旧Twitter)での定期的な情報発信を行っている。情報の内容としては、地盤・地質・土質等幅広く、専

門的なことから誕生石や化石についての話題、現場近くのスポット情報など学生に興味を持ってもらえそうな内容まで幅広く行っている。今後さらに更新内容を充実していきたいと思う。



図-1 X(旧Twitter)ロゴとQRコード

#### ④女性技術者へ向けたメルマガ配信

本取り組みは、女性技術者座談会同様、会社や役職の垣根を越えて、横のつながりを形成することを目的に、2年前より始めた取り組みである。

メルマガの配信はWG発足後5年間で女性技術者座談会に参加していただいたことのある方を対象に配信し、身辺の女性技術者へメルマガ配信の登録を呼びかけるよう促している。

配信内容は、本WGの活動紹介や座談会への参加お礼に加え、専用メールアドレスへのよろず相談受付のお知らせを書き添えた。ワークライフバランスのとり方など、ご質問やWGへの参加希望など、お気軽にお寄せいただければと思う。

四半期に一度の配信を目指し、引き続き配信を継続していく予定である。

#### ⑤中部地質調査業協会HPに女性活躍推進WGのページ開設

中部地質調査業協会HPに女性活躍推進WGのページを開設し、運用している。主に活動の紹介やリコチャレやWG主催のイベント報告や告知に利用している。こちらは中部地質調査業協会のHP内バナーよりアクセスできる。

#### ⑥小牧工科高校での出前授業

今年度は社会人講話講師派遣として、愛知県立小牧工科高等学校より依頼いただき、出前授業を行った。詳細は5項。

#### ⑦三重県建設業協会女性部会との交流会

他団体との交流として、三重県建設会館にて三重県建設業協会女性部会との交流会を行った。交流会は三重県の建設業界に携わる女性職員(事務系や経営者も含む)のメンバーと研修制度やSNSの活用方法など、グループの運営やあり方について意見交換を行った。

### 3.女性技術者座談会の開催

#### 3-1 女性技術者座談会の概要

女性活躍推進ワーキンググループでは2023年6月16日に第5回女性技術者座談会をTKP名鉄名古屋駅カンファレンスセンターにて開催した。座談会では、「資格の取り方と、それを目指す際のワークライフバランス」に焦点を当てた。技術士保有メンバーは自身のキャリアパスと試験へのアプローチ、現在取り組んでいる資格について紹介した。それを参考に、資格についての悩み(どのように勉強時間を確保するか等)問題定義を行い、意見交換を行った。

参加者は経験年数が0年～31年に及び、多様なキャリアパスを有する21名の方に参加いただき、例年通りワールドカフェ方式でお茶とお菓子を楽しみながら活発な意見交換ができた。

会場には、数名分のロールモデルを掲示し、自由に閲覧できるようにした。この業界で就職してからの資格取得のタイミングや転職、昇職など、自身のキャリアパスやワークライフバランスを考える上での参考になると好評だった。



写真-1 座談会の様子  
(模造紙に自由に意見を書き込んでいきます)

#### 3-2 座談会での議論

会場での議論は女性技術者として働く上での困りごと、その解決策やより働きやすくするための制度等について等恒例の話題から、今年度は資格取得についての勉強方法やそのタイミング等について議論した。

資格取得は必要だと思うけれど、その前に仕事を覚えることで手一杯。かといって年齢を重ね、仕事がある程度こなせるようになれば、仕事量は増える一方であり、今度は家庭や自分ごとと仕事の両立で資格勉強をすることが難しくなってくる。資格に囚われすぎて本来の業務や家庭が疎かになるのは違う気がする。など切実な声が上がった。

しかし、資格はキャリアアップにおいての重要な要素となっており、資格取得は避けては通れない。

この意見に対して、技術士等資格保有メンバーからは、資格は会社の制度やさまざまな研修を最大限利用して、

取れるうちに、若いうちに取り組んでおいた方が良い。自分のライフプランを見つめなおし、どこに勉強時間を作るか、将来的なビジョンを計画することを勧めるなどのアドバイスが挙がった。

また、座談会後のアンケートで、参加者からは「男性上司の参加を含めた座談会の開催」や「年2回の開催」など、WG活動への積極的な関心が示された。

おそらく、女性技術者同士、似たようなことを悩みにして、似たような要望があるということが座談会参加を通じてわかってきたので、自分の直属の上司には言いにくいことも、同じ業界で働く多社の女性技術者から挙げられた声として上司の耳に届けばいいなという思いが込められていることが推察された。



写真-2 参加者の集合写真  
(大久保研修委員長を囲んで集合写真が恒例行事です)

また、昨年に引き続き今年も懇親会を開催できた。参加者は同年代で集まって交流したり、同じ会社の先輩と後輩が一緒になったりと、様々な組み合わせで立食パーティーを楽しんだ。最終的には、自然と全員が一つのテーブルに集まり、次回の再会や集まりの約束を交わし、会を締めくくった。

女性技術者座談会開催にご理解いただき、ご協力いただいた皆様、ならびに、座談会出席にご理解いただいた各社様にこの場を借りてお礼申し上げます。



写真-3 懇親会の様子



# 常設委員会報告

## 女性活躍推進ワーキング活動報告

女性活動推進WG 岩崎 理代

### 4. リコチャレ夏の学校「地球を知る」イベント開催

#### 4-1 イベント概要

女性活躍推進WGでは内閣府男女共同参画局のリコチャレイベントとして2023年8月23日に名古屋市科学館にて「地球を知る」と題して学生を対象としたイベントを開催した。

応募に際しては内閣府HPやX(旧Twitter)、協会から各社さんへのメールにて周知していただいた。



図-1 募集チラシ

参加者はメンバー6名、オブザーバー3名、小中高生13名(うち付き添いの未就園児1名)とその保護者9名の総勢31名となり、科学館内では一般の方に配慮し、年齢層ごとに3班に分けて担当メンバーを決め、13:00~15:30頃まで生命館2階と6階の2フロアを自作の解説ボードを使用し、説明しながら巡った。

また、解説ボードの他に、薄片のサンプルを持参した。

参加者にはこれらのサンプルを様々な角度からのぞいたり、自由に触れられる時間を設けた。

また偏光顕微鏡で撮影した薄片の写真を見せたところ、そのカラフルなさまに、子供たちは目を輝かせ、興味津々だった。



写真-4 解説ボードを使って説明するメンバー  
(入館前に地質調査業について解説中)

#### 4-2 アンケート結果

イベント最後にアンケートを行った集計結果を以下に示す。参加者からは以下の好意的な意見が寄せられた。

- ・図を用いた説明がとても分かりやすかった。
- ・化石についての説明が面白かった。
- ・今まで学校で習った知識を生かしながら新しいことも学べたところが良かった。
- ・自由時間があったことが良かった。
- ・地球のことがいろいろ知れてよかった。
- ・どの時代にどんな化石があったのか、もっと調べてみたい。
- ・地球以外の宇宙の地質についてもどうなっているか知りたい。

また、気になったコーナーもアンケートではそれぞれ挙がっており、特に生命館6階には深部探査船「ちきゅう」の展示があり、これを通じ、地質調査やボーリング調査、に興味を持った様子の子が多数見受けられた。

小さい子も「カッコいい!」「そんな船があるのか!」などの驚き、発見を受け、地下にある岩盤をボーリングコアを採取するといった手段で直接試料を手にとって調べられることに驚き、興味を持った様子であった。

また、欄外には保護者の方からも意見をいただき、

- ・地下の熱は発電利用できるのか
  - ・親も楽しめました!
- 等の意見が寄せられた。



写真-5 薄片を観察している様子  
(低学年グループ: ほんとうに…石?)

#### 4-3 リコチャレイベント今後の活動について

リコチャレイベントは来年度もWG内でイベントを発案し、夏の学校2024の参加を目指して準備を進めていきたい。

そのために、定期的に行われる内閣府リコチャレネットワーク会議や各説明会へ積極的にメンバーで参加し、イベント開催や集客のノウハウについて学んでいく所存であり、これらのイベントを通じて、地質調査の魅力や防災について子供たちに発信していく。



## 5.小牧工科高等学校への出前授業

今年度は愛知県立小牧工科高等学校より依頼を受け、社会人講話講師派遣として出前授業を行った。

出前授業は環境科学科に所属する2年生、計35名で、1時間50分(途中休憩時間含む)の時間をいただいた。

授業方式はグループワークとし1グループ5人、男女混成とした。

出前授業の内容は、地質調査業についてとその社会的役割、女性活躍推進WGの活動を説明した後、ミニ実験を行った。また、将来の進路選択に悩む学生が多いことから、業界で働く若手技術者のキャリアパスなどを紹介した。

ミニ実験ではメンバー自作の実験装置とワークシートを用いて円弧すべりの実験と液状化の実験を行った。

円弧すべりの実験では、地すべりの起こる要因、仕組みを説明し、装置を使って実演。

その後ワークシートでは、どのような対策を行うことで災害を防げるかをテーマに対策工の検討に取り組んだ。



写真-6 出前授業の様子

対策工の検討では、現在採用されている工法も100年前には考えられなかったようなものも多くあるが、技術の発達や工法の開発でどんどんより良いものが日々生まれている。

生徒達には新工法の開発者になったつもりで取り組むよう説明し、現実的な意見も非現実的な意見もどんどん出しあい、互いの意見を尊重しとりまとめるよう促した。

これらの議論の中で、水抜きボーリングや抑え盛土、アンカー工など実際に使用されている工法が発案されたときはその対策工の写真を見せたり、装置を用いて実験を繰り返して、実演した。

様々な意見が出た中、「山一つ分、地すべりを起こす水を通しやすい層をいっそう違う材料に置き換えたなら?」「そうすると木や草はどうなるの?山に降った雨は?」「すごくお金かかるんじゃない?」「じゃあ置き換えるものは水を通す素材にしたら?通水アスファルト?」など高校生らしい面白い発議と展開を見せたグループもあった。

授業の最後には、「防災ってまちを守るために大事なんだね。」「防災やまちづくりって当たり前のことだけど、そんな学問があるなんて知らなかった。」「楽しかった!」などの声をかけてくれた生徒もいた。



写真-7 ミニ実験の様子

受け身の授業にならないよう心掛け、実際に学生に体験してもらい、考える作業を共にし、フレッシュな意見を聞き、こちらも大変刺激になった一日となった。



写真-8 学生と議論する二階堂オプザーバー  
(メンバー、先生方も子供たちの目線で)

女性活躍推進WGは、地質調査業への理解と関心を深めるため、子供たち向けの教育活動を継続していくことを目指している。

## 6.今後の活動について

来年度は、新たなメンバーの増員を予定し、年1回の女性技術者座談会を含む、業界の魅力、認知度向上のための様々な活動を計画している。

また、女性技術者座談会でのアンケート結果に応えるべく、現場見学会や講習会などの企画を進めていき、女性が働きやすい環境・制度を整備できるよう、協会への働きかけを随時行っていきたい。

# 常設委員会報告



## 広報委員会報告

委員長 河原 弘明

令和5年度の広報委員会は、委員長・副委員長をはじめ、以下の11人のメンバーで構成されています。

- 委員長：河原 弘明(中央開発(株))
- 副委員長：鈴木 太((株)東海環境エンジニア)
- 委員：浅川 実(日本エルダルト(株))
- 委員：狩野 行宏(昭和設計(株))
- 委員：亀谷 祐幸(大和探査技術(株))
- 委員：川原 久幸((株)テイコク)
- 委員：坂本 健二(東海ジオテック(株))
- 委員：竹市 雅司((株)東京ソイルリサーチ)
- 委員：堀内 律輝(復建調査設計(株))
- 委員：藤森 弘則((株)増田地質工業)
- 委員：白川部竜也(松阪鑿泉(株))

本年度の広報委員会活動は、令和5年度通常総会で承認されました以下の7項目です。

- イ)発注者に対する広報活動
- ロ)中部地方整備局との意見交換会
- ハ)発注者側からの積算等の依頼に対する応答
- ニ)全地連積算委員との連携
- ホ)「地質と調査」等、全地連刊行物の配布先の検討及び配布
- ヘ)改訂版全国標準積算資料の広報宣伝活動
- ト)広報活動での「土と岩」配布

以下に、主な活動について報告します。

### ●発注者に対する広報活動

発注者に対する広報活動は、理事長、副理事長、委員及び理事会社のご協力を頂き、8班編成で7月上旬～8月下旬にかけて行いました。

一次官庁本局については、理事長、副理事長、広報委員長が訪問しました。

広報委員会が担当する愛知、岐阜、三重、静岡及び長野県南部に所在する一次官庁及び独立行政法人については、各班で事務所を訪問し、広報活動資料の説明・配布を行いました。

愛知県協会、岐阜県協会、三重県協会、静岡県協会は、各県及び市町村を担当しました。

本年度の配布物は、以下の通りです。

- ・理事長挨拶状
- ・協会員名簿
- ・機関誌「土と岩」71号
- ・防災協定の写し

「土と岩」は中部協会の機関誌として長年にわたり受け継がれてきました。

今回配布した協会誌71号は、特集として「実践!私たちの働き方改革」と題して、各社における時短・生産性の向上、IT技術の活用、職場環境改善、余暇の過ごし方、女性の活躍など様々な観点から、新しい働き方を紹介しています。

同号には2021年7月3日に発生した熱海の泥流災害の概要や発生原因、泥流災害を受けての国等の動きについて一般社団法人地盤品質判定士会中部支部の利藤顧問から特別寄稿をいただき、盛土規制法及び国土交通省の防災・減災・国土強靱化のための5か年加速化対策の中の「大規模盛土造成地等の耐震化に向けた対策」として、安全把握、調査(ボーリング、土質試験、安定解析)の詳細調査が進められることとなった内容が記されています。

加えて、国土交通省中部地方整備局と行った、「令和4年度中部地区における地質調査業に関する意見交換会」の様態も報告しています。

地質調査の重要性について、各発注者の理解は、年々、高くなってきています。また、長年に亘る広報活動等の結果、中部協会の認知度も高くなっており、突然の訪問にも関わらず各発注者には快く対応して頂き、ここに、紙面をお借りして深く感謝申し上げます。

### ●中部地方整備局との意見交換会

国土交通省中部地方整備局との「令和5年度地質調査業に関する中部地方整備局との意見交換会」は、意見交換会の内容を発注等に活かしてもらえるように、今年度もできるだけ早期に開催できるように取り組み、令和5年10月25日にKKRホテル名古屋にて開催し、整備局より貴重なご意見を賜りました。その様態は本誌でご報告していますので、是非ともご覧ください。

今後もますます(一社)中部地質調査業協会・地質調査業の更なる地位向上を目指し、発注者に対する広報活動や意見交換会等を実施してゆく所存です。重ねてご発注者及び協会員皆様のご協力をお願いします。





## 技術委員会報告

委員長 深谷 雄二

今年度も昨年度に引き続き、ミニフォーラムの企画・開催や学協会行事への共催・協力を主な活動としてきました。

技術委員会のメンバーは、以下の9名です。

- 委員長：深谷 雄二(日本工営都市空間(株))
- 副委員長：松浦 好樹((株)ジーベック)
- 委員：浅川 実(日本エルダルト(株))
- 委員：今津 基洋(東海地質工学(株))
- 委員：片岡 泰((株)キンキ地質センター)
- 委員：勝眞 浩一(南海カツマ(株))
- 委員：小西 純一(サンコーコンサルタント(株))
- 委員：土屋 国彦(土屋産業(株))
- 委員：広瀬 義純((株)アサノ大成基礎エンジニアリング)

主な技術委員会活動は、以下のとおりです。

- 1) 会員各社の技術向上を目的とした技術研究の促進  
・「中部ミニフォーラム2023」企画・開催(R5.10.6)
- 2) 地盤工学会中部支部, 日本応用地質学会中部支部等の諸行事への共催, 事業協力  
・「地盤調査ボーリング作業, 物理探査見学会」の開催(R5.4.28)

なお、全地連主催の講演会開催支援については今年度の活動はありませんでしたが、新たな活動として国土交通省中部技術事務所の「基礎技術研修(R5.8.28)」への講師・実習を担当しました。

### ■地盤調査ボーリング作業, 物理探査見学会

地盤工学会中部支部主催の「地盤調査ボーリング作業, 物理探査～室内土質試験見学会」では中部土質試験協同組合と作業分担して実施しております。昨年再開となり、2年連続での開催となりました。

技術委員会では、ボーリングマシンを使用しての現場作業、原位置試験等の実作業や物理探査作業を見学する場を提供しています。また、ボーリング用ツールについても各種展示しました。

参加者は58名で、地質調査会社、コンサルタント会社、建設会社、学生などで、協会員各社からの参加は26名でした。



ボーリング作業見学会の状況

### ■中部ミニフォーラム2023

今年度は10月6日、名古屋国際会議場にて開催され、60名のご参加をいただきました。

例年同様、若手・中堅技術者の発表力の向上に注力し、発表編数は昨年度の7編とほぼ同じの8編とし、「若手・中堅技術者の発表練習の場」という位置付けとしました。発表12分、質疑・意見交換8分の時間配分とし、活発な質疑応答・意見交換が行われました。

特別講演は、「コアの上にも四十年-岩盤コアの体験的見方まとめかた」と題し、風水土・永田秀尚氏にご講演をいただきました。地質調査の基本となるコアの見方について実例を多く取り入れてご講演いただき、非常に有意義な内容でした。

発表会終了後は、3年ぶりに意見交換会&懇親会を開催することができました。

優秀論文発表者は、論文審査及び発表審査の結果、下記の2名に決定しました。

- ・「細粒分含有率の異なる試料に対する一軸圧縮試験とUU三軸圧縮試験の適用性に関する研究」：松本勝己(中部土質試験協同組合)
- ・「落石調査(特に山岳地の地表踏査)において位置精度を向上させるための取り組み」：田中龍哉((株)アサノ大成基礎エンジニアリング)



中部ミニフォーラム2023 発表会場

### ■中部技術事務所「基礎技術研修」への講師派遣

今年度初の取り組みで、国土交通省の職員を対象とした地質・土質に関する基礎技術研修で、ポータブルコーン貫入試験と簡易支持力測定(キャスポル)の現場実習およびデータ整理を行いました。また、後半ではジオ・ラボ中部で地盤材料試験の実習を行いました。

関連する学協会の行事への共催・後援については下記に示すとおりです。

### ■地盤工学会中部支部

- ・第32回調査・設計・施工技術報告会(R5.6.23)
- ・第35回中部地盤工学シンポジウム(R5.8.7)

### ■日本応用地質学会中部支部

- ・令和5年度技術交流会, 講演会(R5.7.5)



# 常設委員会報告



## 防災委員会報告

委員長 大橋 大輔

令和5年度のメンバーは以下の8名です。

- 委員長：大橋 大輔((株)朝日土質設計コンサルタント)
- 副委員長：武藤 英教(青葉工業(株))
- 委員：御宿 洋二((株)興栄コンサルタント)
- 委員：下原 甚介(国土防災技術(株))
- 委員：小川 晴彦(東海テクノス(株))
- 委員：岡野 直次((株)ランドテクト)
- 委員：谷口 昇(丸栄調査設計(株))
- 委員：齋 秀((株)東海建設コンサルタント)

本年度の委員会の活動内容は以下のとおりです。

### 1.事業者リストの更新作業

中部地整との災害協定に基づき事業者リストの更新作業を行いました。今年度は、登録協会員59社、本店・支店・営業所を合わせて計94事業所が登録され、登録派遣人員数は530名、ボーリング台数115台となっています。

### 2.南トラフ対策戦略会議の構成員としての活動

令和5年5月15日、第14回戦略会議(リモート会議)に出席しました。

また、11月11日には同会議主催の、令和5年度大規模津波防災総合訓練に参加し、ブースの出展をしました。愛知県大村知事もご来訪されるなど好評でした。



出展ブース(大村知事来訪)

### 3.天竜川上流総合水防演習に参加

令和5年5月22日、天竜川上流総合水防演習に参加しました。天竜川上流域における大規模災害を想定した演習・防災機器の展示等が行われました。

### 4.安全パトロールの実施

当協会初の試みとして、令和5年7月14日に安全パトロールを実施しました。防災委員会のメンバー等8名が参加し、現場内の安全対策・熱中症対策等を確認しました。今後ともパトロールの実施を通じて、協会員全員が安全安心な作業を行い、事故を起こさないように徹底していききたいと思います。



安全パトロール

### 5.事故防止講習会の実施

令和5年7月26日、各種保険制度における事故事例をもとに、損害保険登録鑑定人を講師に招き、事故原因・事故発生の防止策、留意すべきポイント等につき講習会を行いました。



事故防止講習会

### 6.「防災訓練(情報伝達)」の企画・実施

中部地整との災害協定を円滑に履行するために、毎年防災訓練をおこなっています。今年度は施設提供の協定により中部土質試験協同組合にて9月26日に実施しました。



防災訓練

以上が活動報告です。

全国に災害が多発する中で、中部地整との災害協定を軸に、協会としての防災体制を構築してきました。

この協定を運用には、安全な現場作業が絶対条件になります。今後は安全作業に対する啓蒙活動にも力を入れていきたいと思いますので、会員各位におかれましてもご協力をお願いします。



## 編集委員会報告

委員長 今井 良則

令和5年度の編集委員会は、下記の9名で運営してきました。

- 委員長：今井 良則(応用地質(株))
- 副委員長：小川 博之((株)アオイテック)
- 委員：小原 潤一(明治コンサルタント(株))
- 委員：小暮 充範((株)グランドリサーチ)
- 委員：藤本 俊之((株)東建ジオテック)
- 委員：森崎 祐治(静岡コンサルタント(株))
- 委員：小田 秀昭((株)建設コンサルタントセンター)
- 委員：阿部 卓也((株)岐阜ソイルコンサルタント)
- 委員：谷口 昇(丸栄調査設計(株))

今年度の編集委員会は、以下の活動を行いました。

- 1) 中部地質調査業協会の機関誌「土と岩」71号の発刊・配布先の検討・配布と72号の企画・制作
- 2) 中部地質調査業協会のホームページの管理および更新・改良(ホームページワーキングを担当、ホームページワーキンググループの活動内容は別途掲載)。



編集委員会の様子

### ●「土と岩」72号の企画・制作

今年度はコロナ禍の終息とともに様々な活動制限もなくなり、ようやく通常の委員会活動を行えるようになりました。業界の成長と発展を見据えて72号の企画を検討しました。

72号の企画を検討する際に、顧客からの要望等に、企業や技術者の実績・資格を確認するケースが増えてきたことが話題となりました。また、社会情勢でも社内ガバナンスの不徹底等による品質低下や品質偽装の問題も頻発しております。これらの問題の根本原因のひとつとして人手不足を上げる向きもあります。こういった社会情勢などを踏まえて、業務効率化や生産性の向上の一つの解決策として、資格保持者による品質管理や品質向上が挙げられております。

### ●資格取得と活用について

私たちの業界でも、資格取得は各企業で積極的に対応しているところではありますが、取得に至るプロセスは個人任せになっているところも多々あると感じておりました。そこで本誌の特集記事として、資格取得の具体的な方法や資格取得による効果などを、実際に資格取得した方々から参考になりそうな経験談などを紹介していただき、これから資格取得を目指す方々の参考にしていただく企画としました。

資格については、業務実施の際によく使われる8つの資格を選定し、資格取得者の方々に、その体験談などを執筆いただきました。皆様方にぜひ活用いただければと思います。

### ●特別寄稿について

本号の特別寄稿は、大同大学 特任教授 大東憲二先生に地下水問題に関する事例を題材として、地下水問題と私たちのかかわりの重要性について執筆いただきました。地下水問題の端緒となった事例などを執筆していただきましたので、今後の私たちのかかわる地下水問題にも非常に有用に活用できると期待しております。是非とも、特集記事の事例を参考にさせていただき、様々な事例に対応していただければと思います。

### ●中部地区の博物館・資料館の紹介について

中部地区の博物館・資料館の紹介は、本誌で数年前にもシリーズ化されておりました。しかしながら、大変に評判の良かった企画にも拘らず、ここ数年間は途絶えていた企画です。大変に評判の良かったシリーズでしたので、本号から再びシリーズ化として復活しました。本号では、三重県総合博物館・学芸員 津村善博様に博物館の紹介とともに地質関連についても執筆いただいております。大変に興味深い記事となっておりますので、是非ともご覧ください。

### ●今後の取組みについて

本誌の企画の際には、皆様方のご意見に真摯に耳を傾け、分かりやすく、読みやすく、面白い記事をお届けするよう努力しております。今後も、皆様方に役立つ、分かりやすい記事の掲載を続ける所存ですので、引き続き、よろしく願いいたします。



## 令和5年度のワーキングの構成

令和5年度のホームページワーキングは、以下のメンバーのほか、深井副理事長、今井編集委員長が加わる構成で活動を行ってきました。活動は、コロナ、インフルエンザ等の感染状況を見ながら、担当ごとで活動したほか、対面による会議形式で審議・検討を行いました。

令和5年度も、これまで同様、協会の一体感醸成、協会ホームページの認知度向上を目指した活動とし、連携強化の一環として、静岡支部からのメンバーの参加も継続しました。

- 委員：宮尾 浩一(応用地質(株))
- 委員：津坂 喜彦((株)アオイテック)
- 委員：黒田 了介((株)グランドリサーチ)
- 委員：佐藤 祥昭(川崎地質(株))
- 委員：柴田 雅也(基礎地盤コンサルタンツ(株))
- 委員：中山 雄太(東邦地水(株))

## 令和5年度の活動概要

令和5年度のホームページワーキングは、すべて会議形式で行いました。

今年度最初のワーキングでは、各委員が、意気込みを表明し、以降、それに従って活動しました。

今年度も、これまで同様、年度活動計画の議論、協会・会員企業の役員交代・移転等への対応、各支部活動のお知らせ、身近な地質スポット、歴史地震スポット等の追加、地質調査や協会活動にも関係深そうなおトピック情報の収集・抜粋・掲示、ホームページ不具合の解消活動等を行ってきました。

このほかに、スポット的な活動として、地質調査要領エッセンスの抽出・追加、ヒヤリハット事例収集・取りまとめ、他機関コンテンツへのリンク、リンク集を含む既存コンテンツのメンテナンスなどを行いました。

また、協会事務局PC不具合への応急対応を行ったほか、今後に向けた不具合対応の仕組み検討・提案を行いました。

以上のように、今年度の活動は、これまで以上に活発であったと思います。

以降では、主な活動の一端を紹介します。

## 身近な地質スポットの追加

身近な地質スポットについては、「東谷山」、「海拔ゼロメートル地帯」、「竹島」、「東濃鉱山」、「志摩地方のリアス式海岸」を追加しました(近隣のラーメン店情報も含む)。

「東谷山」では、愛知県名古屋市守山区と瀬戸市に跨

る標高198mで名古屋市最高峰の山を紹介しています。古来より信仰を集めた霊山であり、ヤマトタケル伝説があります。名古屋地域に分布する多くの地質体を見ることができる貴重な地域です。

「海拔ゼロメートル地帯」では、濃尾平野の南部に広がる海拔ゼロメートル地帯を紹介しています。海水面より低い場所ですので、ひとたび豪雨、台風、高潮、津波などで浸水するとその被害は計り知れません。濃尾平野では、古来より危険を知らながら人々が住み続けてきました。そこにはそれ相応の理由があり、涙ぐましい先人の努力がありました。今なおその危険は完全には取り除かれておらず、これからも課題解決ため、尽力していかねばなりません。

「竹島」は、蒲郡市の東部沿岸、三河湾に浮かぶ周囲約680mの小さな島の紹介です。蒲郡市のシンボルとされています。古来より神域とされてきたことから、原生林がそのままの形で残っています。地質は、前期白亜紀時代の古期領家花崗岩類を主体とし、古くから良質な石が採掘されることで有名で、竹島に残る矢穴は名古屋城石垣採石丁場の1つであった名残だといわれています。(下写真は、竹島)



「東濃鉱山」では、土岐市と瑞浪市の境界に位置しており、現在は役目を終え閉山された鉱山を紹介しています。その役目は、ウラン鉱床の形態や品位分布状況を明らかにすることでした。1964年からウラン鉱床の炭鉱を開始し、調査立坑の掘削、研究の末、初期の目的を達成したことから休止鉱山となり、2010年から閉山措置となっています。

「志摩地方のリアス式海岸」では、三重県中西部の志摩半島にある複雑に入り組んだ海岸線を紹介しています。風光明媚なことから、伊勢志摩国立公園に指定されています。英虞湾、的矢湾、五ヶ所湾などの大きな内湾には、大小さまざまな島や無数の入り江があります。外洋側には海食崖や海食洞など、内湾側には魚骨状・鋸歯状の小島群などの特殊な地形が数多く点在しています。

お近くに行かれた際には、ラーメン店ともども、是非、お立ち寄り下さい。

### 一口メモの追加

一口メモについては、今年度は、以下のものを追加しました。

- 〈地質調査に関するもの〉  
掘削定面の安定、ヒーピング、ボイリング、盤膨れ
  - 〈維持管理に関するもの〉  
地域インフラ群再生戦略マネジメント
  - 〈時事その他に関するもの〉  
水循環白書、国土交通白書、防災白書、環境白書、子ども環境白書、遠隔臨場、ウェアラブルカメラ、クラウドカメラ、スマートグラス
- 今後も折に触れて、追加・更新をまいります。

### ヒヤリハット事例収集・取りまとめ

ヒヤリハット事例については、一昨年より、事例紹介の必要性の議論を始め、昨年より収集を開始してきております。今年度は新たに収集したものも含めて、現段階で取りまとめを行い、お知らせにアップすることで、事例の紹介を図りました。

今回アップした事例は、会員企業において実際に発生したものですので、身近な事例です。同様のヒヤリハットへの遭遇を回避するためにも、是非、ご覧下さい。



ヒヤリハットについては今後とも事例収集を継続していきます。事例をお持ちの方は、その概要を事務局までお寄せください。収集状況を見ながら、ヒヤリハット事例紹介コンテンツの追加等を検討していきます。

### リンク集のメンテナンス及びリンク先の追加

今年度のリンク集のメンテナンスは、追加、リンク切れ等の改善等を行ったほか、中身の見直し、使い易さの改善検討を行いました。役割終了したものは削除、ジャンプボックスの設置等により改善を図りました。

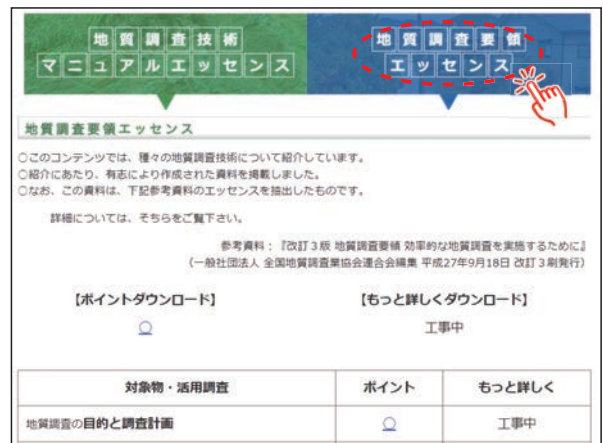
また、以下のサイトをリンク先として追加しました。

- 「JGS規格コンテンツ」
- 「国土地盤情報センター  
(測量基準の閲覧サービスページ)」
- 「土砂埋立等の記載に関する条例ページ」



### 地質調査に関する基本的な情報の充実

ホームページ利用者アンケートを踏まえて、地質調査に関する基本的な情報の充実を図ることを目的として、「地質調査技術マニュアルエッセンス」、「地質調査要領エッセンス」コンテンツを追加しております。後者は、「ポイント」部分のみ完了しております。今年度は、「山岳トンネルの地質調査」の「もっと詳しく」部分に資料を追加しました。このコンテンツは、種々の対象物に対する地質調査のポイントや概要を知りたいときや、新しく入社された方の研修時などご活用下さい。今後、順次、資料をアップしていきます。



埋立・港湾構造物の地質調査	<a href="#">🔗</a>	工事中
山岳トンネルの地質調査	<a href="#">🔗</a>	<a href="#">🔗</a>
ダムの地質調査	<a href="#">🔗</a>	工事中

### 引き続き、ご支援・ご協力を

令和6年度の活動につきましても、これまで同様、皆様からのご意見、ご要望等を、できる限り活動に反映させる形で進めてまいります。引き続き、皆様のご支援・ご協力をお願い申し上げます。